

研究課題	アウトプットを通して外国語によるコミュニケーション能力を高める研究
副題	～タブレットを活用したパフォーマンステストの開発と波及効果の検証～
キーワード	コミュニケーション能力・ICT活用・パフォーマンステスト
学校/団体名	公立宮城県仙台二華高等学校
所在地	〒984-0052 宮城県仙台市若林区連坊一丁目 4-1
ホームページ	https://nika.myswan.ed.jp/

1. 研究の背景

教科書の英文訳読を中心とした授業では、教師から生徒への一方向の情報提供が多くなり、生徒の考える時間や発言が少なくなる傾向がある。同時に、言語活動が少なくなることで、コミュニケーション能力の伸長が妨げられという弊害が指摘されてきた。この問題点を解決するために、視覚的・聴覚的に理解が容易で、インターネット上の膨大な情報へアクセスしやすく、協働学習が促進される ICT 機器を利活用しながら、生徒の主体性を活かしたアウトプットを推進することで、コミュニケーション能力を高めることが急務である。

2. 研究の目的

カナダの応用言語学者である Michael Canale は、以下のように「4領域からなるコミュニケーション能力モデル (1980)」を提唱している。このモデルは、効果的なコミュニケーションに必要な4つの要素を示しており、今回の研究において重要な示唆を与えてくれた。

1) 文法能力：文法、語彙、発音、正しい文構造など言語の形式に関する知識。

2) 社会言語能力：状況に応じた適切な表現を選ぶ能力。

3) ストラテジー能力：コミュニケーション中に問題が生じた際、それを克服するための戦略。

4) 談話能力：文をつなげて一貫性のある意味の流れを作る能力。

本研究では、以上の4つの要素から、社会言語能力と談話能力で明示されている状況に応じた適切な表現を選び、文をつなげて一貫性のある意味の流れを作る言語活動を行えば、生徒の学ぶ意欲やコミュニケーション能力は高まるかどうかを明らかにする。

3. 研究の経過

生徒の学習段階を考慮し、1年間で4期間に分けて年間指導計画表(表1)を作成し研究を進めていく。そして、各 Unit に2つの言語活動を組み入れる。1つ目は、「状況に応じた適切な表現を選ぶ言語活動」で、テーマに応じた具体的な状況を設定し、そこで使うことが想定される表現をペアワークやグループワークを通して学んでいく。2つ目は、「文をつなげて一貫性のある意味の流れを作る言語活動」で、論理的な文章にするために、構成の整合性、因果関係の明確化、論拠の説得力、接続詞の適切な使用等を意識させながらパフォーマンステストを行う。

表1 年間指導計画表

期間	月	テーマ	言語活動① 状況に応じた適切な表現を選ぶ言語活動	言語活動② 文をつなげて一貫性のある意味の流れを作る言語活動	ICT 利活用
① 準備期	4月	Unit 3 食べ物	ペアになり、自分の食べ物の好き嫌いを相手に説明する。	好きな飲食店の評価を書き、グループのメンバーがそれを読んで感想を書く。	スプレッドシート入力
	5月	Unit 4 発明品	ペアになり、仮定法を使って自分が発明したい物を説明する。	世界に誇れる日本の発明品の写真と共に、その説明を加える。	写真と説明文の投稿
② 移行期	6月	Unit 5 夏休み	ペアになり、長期休業中にやりたいこととやりたくないことを説明する。	Gap Year に対して賛成か反対かを理由と共に述べる。	動画を録画し投稿
	7月 8月	Unit 6 性格	グループになり、アンケート調査の結果（内向的・外向的）を説明する。	グループでの話し合いの結果を、図を作成しながらプレゼンテーションする。	図を作成し提示
事前アンケート調査					
③ 発展期	9月 10月	Unit 7 偉人	個人で、新紙幣に取り上げたい人物を考える。その後、ペアになり、その人物を自由に説明する。	グループになり、新紙幣に取り上げたい人物を「導入→理由付け→結論」の流れで説明する。それを聞いた他の生徒は賛成か反対かを伝える。	テキストマイニングとパドレットの使用
	11月	Unit 8 報道	ペアで、小さいころに信じていた都市伝説を相手に説明する。	ペアになり、教科書の内容でフェイクニュースと思われる部分を相手に伝え、それに対する意見を聞く。	フォームにまとめて入力する。
④ 完成期	12月	Unit 9 職業	ペアになり、なりたい職業となりたくない職業を選び説明する。	ペアになり、アルバイトの模擬面接を行う。	自己PR動画の投稿
	1月	Unit 10 校則	ペアになり、学校の諸問題を考え、解決策を説明する。	グループになり、どの解決策が最も重要かをきめ、プレゼンテーションをする。	動画で録画する。
校外へ目を向け「政治に求めるもの」を考える。			エッセーを新聞社へ投稿する。	フォームに入力	
事後アンケート調査					

4. 代表的な実践

1) タブレットの活用①

ICTの活用は一朝一夕では完成しないので、一年間を通してiPadを使用させるために、毎時間使用する資料を「Google クラスルーム」(図1・付録)にアップした。授業中はそこに示された状況設定や手順を示したワークシートを見ながらアクティビティを行ったり、成果物をアップさせたりした。そのおかげで、紙の資料を準備する必要はなくなり、教材研究や成果物の点検に時間を割くことができた。また、授業中に課題が完成できなかった生徒は、放課後や家庭で続きができるというメリットもあった。

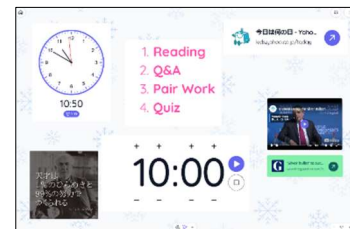
図1 Google クラスルームの一例



2) タブレットの活用②

授業を効果的かつ魅力的にするため、Web版電子黒板である「Classroomscreen」(図2)を用いた。ウィジェットを使って、時計、タイマー、授業内容、音声、動画、リンク先や関連資料等を張り付けておき、それを見せながら授業を行うことで、スムーズに授業が展開することができる。

図2 Classroomscreenの一例



3) タブレットの活用③

対面コミュニケーションでは、直接その場で伝えたほうが効果的だという考えもあるが、アプリを使うことで推敲しながら言語化・可視化でき、書かかれたものを後でじっくり読むことができる。また、自分のタブレットにその画面を保存できるメリットは大きい。以下の3つのアプリを使用したのは、生徒に使い方を説明しやすく、操作がシンプルで、すぐに使えるものである。



図3 「AIテキストマイニング」を使った作成例

大量のデータから価値ある情報を引き出す技術で、Web上に解析したいテキストを入力すると、頻出語や特徴語が品詞ごとに色分けされる。図3は、津田梅子に関する動画や資料を視聴した後、思いつくキーワードをGoogleフォームに入力させ、そのテキストを張り付けると自動的に作成されたものである。

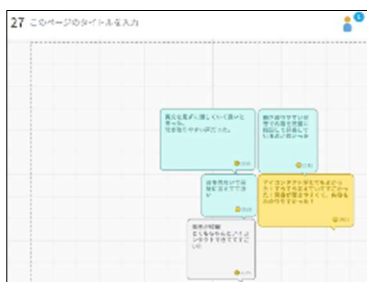


図4 「ふきだしくん」への書き込み例

授業中に生徒の意見を可視化できる付箋ツールで、ログイン不要、アプリのインストールも不要である。先生がボード(99枚まで使用可)を作成し、生徒を招待すると指定された場所に生徒が自分の意見を書き込むことができる。図4は、グループ内で自己紹介した「27番」の生徒に対して、聞いていた生徒がコメントを書いたものである。



図5 「Padlet」への書き込み例

ブラウザで使えるオンライン掲示板アプリで、テキストの入力はもちろん、画像、音声、動画、手書きなどいろいろなものを投稿できる。図5は、グループ内で、新紙幣の肖像として誰を推すかというスピーチを聞いた後で、メンバーそれぞれに向けた感想を一枚のボードに書かせたものである。

4) タブレット活用④

「ICT 端末を使った諸活動は、英語への興味・関心の高い低いに関係なく英語への学習意欲を高める(二宮孝行, 2023)」ように、ICT 活用と英語学習の親和性は非常に高い。そこで、Unit 4 では iPad の写真とメモを使って、日本の発明品の写真に、それを説明する英文を打ち込ませた(図6)。真剣かつ生き生き活動している姿が印象的であった。

図6 生徒の作品例



5) 言語活動①

今回の1つ目の研究目的である「状況に応じた適切な表現を選ぶ言語活動」を、各 Unit のウォーミングアップで行った。Unit 5 では、「夏季休業中にしたいこと・したくないこと」(図7) というテーマを与え、自分の考えに近い状況を選択し、その状況に応じた表現を用いて会話練習を行った。

図7 生徒への指示例

Warm-Up : 想像しながら説明する!

- 1) Which one looks enjoyable? Tell your partner your answer and why?
- 2) Which one would you not enjoy doing? Tell your partner your answer and why?

言いたいことが言えるのでやらされ感が減り、パフォーマンスの向上に大いに貢献した。自分事化させ、当事者意識を植え付けることが言語活動には最も重要な要素の一つである。

6) 言語活動②

2つ目の研究目的である「文をつなげて一貫性のある意味の流れを作る言語活動」は、各 Unit の最後に行うパフォーマンスで実施した。Unit 9 は、「アルバイトの面接試験」(図8) というテーマを与えて、モデル文に自分の情報を挿入したり、現状に合わせて表現を変えたりしながら一貫性のある発表原稿を作成した。その後は、ペアワークやグループ内での発表会を行い、最後に各自で iPad に録画し提出させた。

図8 生徒への指示例

- STEP 1 Read 10 part-time job ads on page 214-215 and decide which job you want to get.
STEP 2 Prepare for an interview for the job.
1. Be ready to describe yourself generally (自分自身一般的に説明する準備)
 - ① I'm a second-year high school student and I'm in the ... club. (学年と部活動)
 - ② In my free time I like to ... (余暇の過ごし方)
 - ③ People usually say I'm (cheerful / conscientious / considerate / diligent / efficient / energetic / enthusiastic / friendly). (人に言われたことのある「性格」(個人の肉体的な特徴や傾向))
 2. Be ready to talk about your work experience and skills (自分の仕事の経験と技術を説明する準備)
 - 【経験有りの場合】As you can see from my resume, I worked at ...
 - 【経験無しの場合-①】I have no work experience, but I study ... hard.
 - 【経験無しの場合-②】I have no work experience, but I'm in charge of
 3. Be ready to talk about what about the job attracts you and what you hope to achieve through working at it. (その仕事の何があなたを惹きつけ、その仕事を通して何を達成したいかを説明する準備)
 - ① I've been interested for a while in booming ... (憧れたい職業)
 - ② And I believe that this job would also give me an opportunity to ... (仕事で得られるもの)
 4. Be ready to thank the interviewer at the end of the interview (面接官へ感謝の言葉の準備)
 - 【①会えたこと御礼】Thank you so much for meeting with me.
 - 【②時間を取ってもらった御礼】I appreciate you taking the time to interview me.
 - 【③機会を設けてもらった御礼】I really enjoyed the opportunity to talk with you about the job.

7) 言語活動③

英語で話すアクティビティだけではなく、教科書の内容を自分で調べ、学び合った内容を日本語で相手に伝えるプレゼンテーションも行った。「説明したりその準備をしたりするときに、説明に入れるべき重要な情報を選択して、既有知識と結びつけることで説明をわかりやすくしようと努力する(小林敬一, 2020)」ので、教えることは最高の学習方法だと言っている。そこで、文構造説明(図7)や要約説明(図8)という課題を学び合い、これまで教師がやってきたようなことを友人の前で実践した。

図7 文構造を説明する生徒



図8 段落の要約を説明する生徒



5. 研究の成果

実践前後にアンケート調査(有効回答数 96 名分)を行い、自己評価がプラスに変容した項目(表2 赤い網掛け部分)を見ながら、今回の研究の成果を考察する。

表2 アンケート調査(有効回答数 96 名分)

番号	分野	質問項目	+に変容	変容無し	-に変容
1-1	英語 一般	英語は好きですか。	13	65	18
1-2		英語の授業は楽しいですか。	16	57	23
1-3		英語の授業は理解できていますか。	14	58	24
1-4		英語を学ぶ目的を持っていますか。	9	64	23
1-5		英語の必要性を感じていますか。	10	67	19
1-6		英語を使えるようになりたいですか。	9	78	9
2-1	リー ディ ング	英語を読むことは楽しいですか	21	51	24
2-2		書かれている内容をどれだけ理解できていると感じていますか。	22	57	17
2-3		書かれている内容を読もうとする自分の姿勢は積極的ですか。	15	57	24
2-4		内容を推測しながら英文を読んでいますか。	12	64	20
2-5		文の構造(文法や文型)を意識しながら英文を読んでいますか。	29	48	19
2-6		語順通りに(左から右へ戻らずに)英文を読んでいますか。	23	52	21
3-1	リス ニ グ	人の話やスピーチを聞くことは楽しいですか。	17	50	29
3-2		話されている内容をどれだけ理解できていると感じていますか。	15	51	30
3-3		人の話やスピーチを聞こうとする自分の姿勢は積極的ですか。	14	58	24
3-4		内容を推測しながら人の話やスピーチを聞いていますか。	18	56	22
3-5		文の構造(文法や文型)を意識しながら人の話やスピーチを聞いていますか。	27	49	20
3-6		話された言葉の順番通りに人の話やスピーチを聞いていますか。	24	52	20
4-1	ライ ティ ング	自分の意見や考えを書くことは楽しいですか。	23	53	20
4-2		自分の意見や考えをどれだけ書けていると感じていますか。	20	63	13
4-3		自分の意見や考えを書こうとする自分の姿勢は積極的ですか。	23	53	20
4-4		単語や文法の誤りを気にせずに自分の意見や考えを書けますか。	28	46	22
4-5		自分の意見や考えを書くときに論理的な書き方を意識していますか。	20	50	26
5-1	スピ ーチ ング	自分の意見や考えを話すことは楽しいですか。	29	48	19
5-2		自分の意見や考えをどれだけ話せると感じていますか。	16	55	25
5-3		自分の意見や考えを話そうとする自分の姿勢は積極的ですか。	15	57	24
5-4		単語や文法の誤りを気にせずに自分の意見や考えを話せますか。	19	57	20
5-5		相手との関係や場面に応じて、ルールを守りながら自分の考えや意見を話していますか。	14	57	25
5-6		話の展開の仕方を考え、意味のまとまりをもった会話を組み立てることができますか。	24	50	22
5-7		人前で話すときにジェスチャーやアイコンタクトを意識していますか。	18	61	17
6-1	ICT 活用	iPad を使った授業は楽しいですか。	23	58	15
6-2		iPad の操作は上手にできますか。	11	65	20
6-3		iPad の利用は成績やモチベーション向上になっていますか。	24	44	28
6-4		Google クラスルームを使った授業は楽しいですか。	20	50	26
6-5		Google クラスルームの操作は上手にできますか。	17	63	16
6-6		Google クラスルームの教材は成績やモチベーション向上になっていますか。	24	44	28

まず、野平夕子他（2010）が、『使いながら学ばせる』という意識へと転換し、生徒が生き生きとことばを使う場面を与えようとするのが、コミュニケーションを支える大きな鍵となる」と指摘する通り、今回の様々な実践を通して得られた生徒の変容結果からも、ライティングでは「自分の意見や考えを書けている」とアウトプットの達成感を感じ、スピーキングでは「自分の意見や考えを話すのは楽しい」とコミュニケーションを楽しんでいる生徒が増えたことは大きな成果だと考えられる。さらに、リーディングとリスニングでも「文の構造（文法や文型）を意識しながら英文を読んだり、人の話やスピーチを聞いたりする」という意識が高まったと言える。

また、「iPadを使った授業は楽しい」と言う生徒が増えたことは、副題に掲げた「タブレットを活用したパフォーマンステストが生徒に与えた効果」はあったのだと考える。橘憲也（2019）が、「ICTの特性が生かされ、面白いと感じられる活動には、学習内容と自分との強い関連性がある」と述べているように、iPad や Google クラウドを活用しながら、アクティビティのテーマを自分事化し、主体的にパフォーマンステストに取り組むことで、授業に対するモチベーションが上がり、達成感や自己肯定感も向上しているのだと言えるであろう。

6. 今後の課題・展望

次に、自己評価がマイナスに転じた項目（表1 青い網掛け部分）を見ながら、今後の課題と展望について考える。

リスニングでは「話されている内容を理解できている」と感じなかったり、スピーキングでは「相手との関係や場面に応じて、ルールを守りながら自分の考えや意見を話している」と実感できなかったりする生徒が多いのは、音声だけのコミュニケーションに対する苦手意識を実感していると考えられる。正しい方法で学習を継続すれば、英語力は必ず向上することは事実であるが、必ず停滞する時期（プラトー期）が訪れる。英語のような手続的知識（やり方に関する知識）の習得には、ある程度の熟成と言える時間が必要だと考えるのが普通であり、毎日短時間でいいので英語を使う以外に方法はない。

また、アンケート調査の「英語一般」の項目では、「授業は楽しくない」、「授業は理解できない」、「学ぶ目的がない」、「学ぶ必要性を感じない」と感じている生徒の数はかなり増えている。その理由としては、英語は語彙の増強と文法の理解が基本で、これを積み上げていきながら、運用していくことが「上達する」から「好きになる」に変容していくのだと考えられる。基本をおろそかにし、いくら技術を磨いてもレベルアップを感じられないのは当然のことである。同時に、テーマや言語活動が難しくなるにつれて、伸びているという実感が湧いてこなくなり、その結果、英語はとっっても嫌なものへと転じていく可能性が高い。今後の研究課題は、英語の基本を大量にインプットしながら、それが生かせるアウトプット活動を行うことと感じている。

7. おわりに

これまでの授業では、読んだり聞いたりした英文で使われている語句や表現、文法の知識をただ蓄え、来るべき考査や入試に活かすだけでよかった（知識重視）。しかし、時代は変わり、蓄

えたものを活用しながら自分の考えを友達と話し合うことが必要になった（アクティビティ重視）。しかし、現在は、相手の意見や考えを取り入れながら、話し合いを広げ、再度自分の考えを練り上げて、それを英語で書いたりプレゼンテーションしたりする必要がある（主体的で深い学び）。いわゆる思考の言語化に力を入れることが我々教師に求められている。

混迷を極める現代で英語の重要性は日々増している。それに伴い、大学入試が変わり、AIを含むテクノロジーの進化やICT機器の積極な導入で学び方も変わってきた。生徒を取り巻く環境は大きく変わり、英語を使うチャンスも増しているのに、生徒の英語を学ぶ意欲がなかなか上がらない。我々は今後も万代不易の問題に立ち向かわなくては行けない。

8. 参考文献

- ・服部孝彦（2018）「コミュニケーション能力とは」
『大妻女子大学英语教育研究所だより』 1-1
- ・橘憲也（2019）「高校生におけるタブレットを活用した英語授業の実践」
『中部地区英語教育学会紀要』 175-180
- ・野平夕子他（2010）「コミュニケーションを支える文法指導の研究」
『川崎市総合教育センター研究紀要』 85-104
- ・小林敬一（2020）「他者の学習者に教えることによる学習はなぜ効果的なのか？」
『教育心理学研究』 401-414
- ・二宮孝行他（2023）「ICT 端末の活用した英語学習への意欲に関する考察」
『北翔大学教育文化学部研究紀要』 159-170

9. 付録（Unit 7：Google クラウドの資料と活動例）

01. 導入資料（動画・著書）

- ・「YouTube 動画」や「著書（青空文庫）」から津田梅子に関する資料を視聴させる。
- ・視聴して思い浮かべたイメージを言語化させ「Google フォーム」に記入させる。
- ・回答を「AI テキストマイニング」で解析する。

02. 自学用資料（ワークシート）

- ・新語リストでスペリング、意味、英語での言い換えを学ぶ。
- ・和訳例を見ながら意味が理解できない部分を読み込む。
- ・文構造解説を見ながら、語法を確認する。
- ・本文学習ノートをやりながら、復習する。

03. Warm-Up

- ・「導入動画」を鑑賞する。
- ・日本銀行のホームページにある『新旧紙幣比較』を見ながら新紙幣の特徴や肖像を話し合う。

04. Listening 1

- ・リスニング終了後に問題を解き、「解答・解説」を読んで自己採点する。
- ・本文中の単語の Quiz（英日・日英・英英）を解かせて語彙の定着を促す。

05. Phrase Practice

- ・台湾の高校へ留学し、英語で自己紹介をするという前提で活動を行う。
- ・「例文分析と原稿作成」と「評価基準」を示し、各自で発表原稿を作成し入力する。
- ・各自でリハーサルを行った後で順番に発表する。
- ・聞いているメンバーは、「ふきだしくん」に発表者の良かった点や感想を記入する。

06. Reading 1

- ・初見文を速読した後に Quiz を解き、内容の理解度を確認する。
- ・ペアで1文を担当し、文構造や重要構文・熟語を調べる。
- ・次の時間には、一人が担当する文を音読し、もう一人が調べた内容を教壇から解説する。
- ・また、次の時間に各段落を要約する。

07. Comprehension

- ・Reading 1に関する問題を解き、「解答・解説」を読みながら自己添削する。

08. Grammar & Grammar Exercises

- ・「文法解説」を読む。
- ・Grammar Exercises を解き、「解答・解説」を見ながら自己添削する。

09. Visual Information and Retelling

- ・6人で6グループを作り、どのグループがどの写真を担当するのかをくじで決める。
- ・15分間で発表原稿を作成し、「ふきだしくん」の「ボード」に英文を張り付ける。
- ・どれをそのグループの英文とするのかを決め、順番に読み上げる。

10. Listening 2 *Listening 1 と同じ流れ。

11. Reading 2 *Reading 1 と同じ流れ。

12. Performance Test

- ・資料の「プレゼンテーションの流れ」を説明する。
- ・次期の新紙幣に採用するのに相応しい日本人を考える。
- ・3部構成で原稿を作成し、「Google フォーム」に打ち込んで提出する。
- ・グループ内で発表し合い、聞き手は賛成・反対の意思を表明し、感想を言う。

13. 英語発音講座

- ・この Unit で集中的に学ばせたい項目を取り上げる。
- ・プレゼンテーションやパフォーマンステストで必要になる音読を重点的に指導する。
- ・可能な限り「YouTube 動画」や参考となる「サイト」を使って学びを深める。
- ・今回は、『タロサックの海外生活ダイアリー』で喉発音の重要性を説明した。
- ・また、発音の重要性を指摘するため、『American Sound (音声)』で発音方法を解説した。